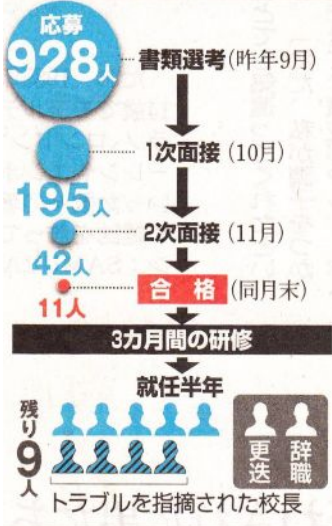


大阪市の民間人校長

優秀な人材に絞り込んだはずが…



← 朝日新聞 13(H25).9.20

免許を持たない民間人は、
教諭への降格もできない。

■大阪市の民間人校長の不祥事・トラブル

- ①「思い描いた職場と違う」と3カ月足らずで辞職
- ②保護者の尻を触るなどセクハラ行為で減給・更迭
- ③市教委が行ったかのように保護者らへアンケート
- ④「子どもをつくらないの」などと女性に尋ね謝罪
- ⑤全国学力調査の日など3回、手続きせずに外出
- ⑥校長室で教頭と口論になり、最後に教頭が土下座

大阪市：民間出身校長の不祥事、新たに3人 セクハラなど

毎日新聞 2013年09月20日

大阪市の公募で就任した民間出身の校長の不祥事が相次いでいる問題で、市教委は19日、新たに3人の民間出身校長にセクハラやパワハラの疑いがあることを明らかにした。市教委は事実関係を調べ、処分を含めて検討する。

市教委や学校関係者によると、西成区の中学校長(59)は今年4～5月に個人面談した6人の女性教職員に、「結婚せえへんの?」「なんで子供作らへんのか」などと質問。教職員の指摘を受け、校長は6月の職員会議で謝罪した。

生野区の中学校長(37)は地域との連絡を巡って教頭と口論になり、「間違っていたら謝罪すべきだ」と問い詰め、教頭は土下座して謝った。教頭は「パワハラまがいだった」と市教委に話している。6月には修学旅行で川下りをした際、ふざけて生徒を川に落とした。生徒にけがはなかった。

一方、鶴見区の小学校長(57)は出張や休暇の手続きを取らずに計3回、職場を離脱した。市外に長時間出かけたこともあった。

校長公募は橋下徹市長の公約で、市教委は今春、民間から11人を採用した。うち1人は3カ月足らずで退職。他の1人はセクハラ行為を繰り返したとして減給処分、別の1人は虚偽のアンケートを保護者らに配ったとして嚴重注意を受けた。

この日の市議会では、市議から処分の甘さを指摘したり、制度の見直しを求めたりする声が相次いだ。市教委は来春も、予定通り35人の民間出身者を採用する方針。【林由紀子、茶谷亮】